# 大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
## 2026年 第44週（10月26日～11月1日）

## 今週のコメント
### ～インフルエンザ～　咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

## 定点把握感染症

「インフルエンザ　減少続く」

第44週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,334例であり、前週比0.2%減であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎、手足口病の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.23、1.68、0.88、0.50、0.46である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比4%増の578例で、中河内4.83、北河内4.73、大阪市南部4.06、三島4.00、泉州3.45であった。

RSウイルス感染症は10%減の301例で、南河内3.50、北河内3.05、大阪市北部2.54である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は2%減の157例で、南河内1.71、中河内1.44、北河内1.32であった。

流行性角結膜炎は24%増の26例で、中河内1.40、大阪市北部・大阪市西部1.00である。

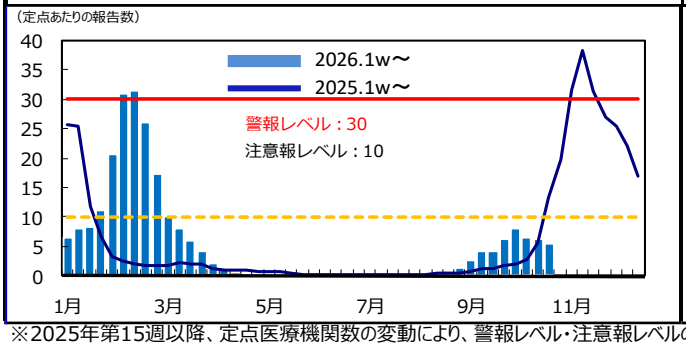
手足口病は22%増の82例で、北河内1.14、中河内0.83、大阪市南部0.71であった。

インフルエンザは10%減の1,547例で、定点あたり報告数は5.49である。北河内7.97、泉州7.73、大阪市西部7.27、南河内6.64、大阪市東部6.26である。3週連続で減少している。

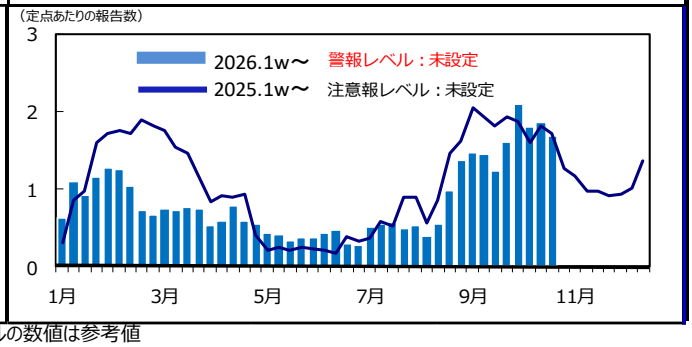
新型コロナウイルス感染症は21%減の116例で、定点あたり報告数は0.41である。南河内0.86、大阪市東部0.74、北河内0.67、大阪市南部0.50、泉州0.39であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は7%減の10,105例で、定点あたり報告数は35.83である。南河内53.41、北河内49.36、中河内41.52、大阪市北部36.25、泉州36.00であった。

**インフルエンザ**




**ＲＳウイルス感染症**




※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

**表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第44週10月26日～11月1日）**

| 第44週の順位 | 第43週の順位 | 感染症 | 2026年第44週の定点あたり報告数 | 前週比増減 | 2025年第44週の定点あたり報告数 | 2026年第44週の年齢別患者発生数最大割合値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 感染性胃腸炎 | 3.23 | 4%増 | 3.25 | １歳_17% |
| 2 | 2 | RSウイルス感染症 | 1.68 | 10%減 | 1.72 | １歳_41% |
| 3 | 3 | Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 0.88 | 2%減 | 1.45 | 10-14歳_16% |
| 4 | 5 | 流行性角結膜炎 | 0.50 | 24%増 | 1.06 | 20歳以上_58% |
| 5 | 6 | 手足口病 | 0.46 | 22%増 | 0.13 | １歳_38% |
| 参考 | | インフルエンザ（急性呼吸器感染症定点報告疾患） | 5.49 | 10%減 | 13.33 | 20歳以上_30% |
| 参考 | | 新型コロナウイルス感染症（急性呼吸器感染症定点報告疾患） | 0.41 | 21%減 | 1.28 | 1-4歳_16% |
| 参考 | | 急性呼吸器感染症（ARI）（急性呼吸器感染症定点報告疾患） | 35.83 | 7%減 | 53.05 | 1-4歳_37% |

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報 ）をご覧ください。

## 第44週のコメント

**～エムポックス～ 大阪府では2023年は22例、2024年が0例、2025年は2例が報告された**

### 全数把握感染症

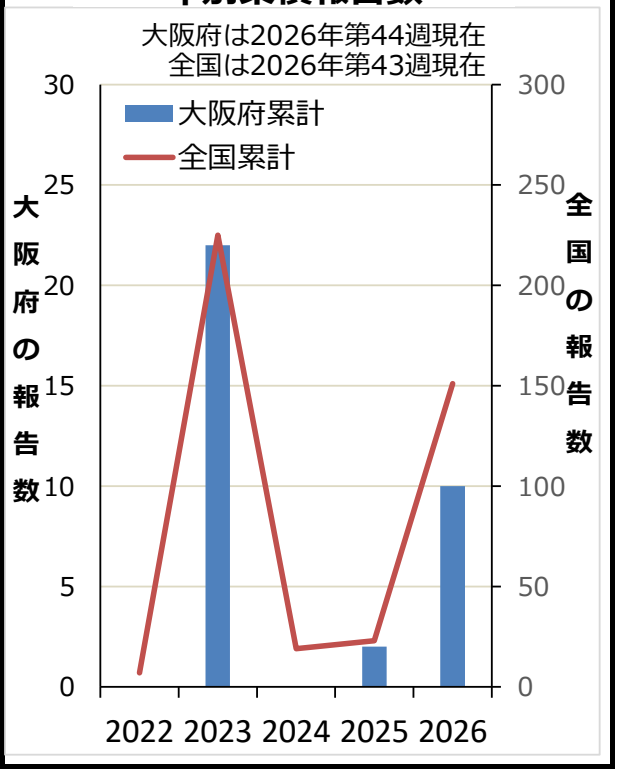
#### エムポックス

エムポックスは、エムポックスウイルス （MPXV）を病原体とする感染症である。（ｉ）主に感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液に触れた場合（性的接触を含む）、（ ii ）患者と近くで対面し、飛沫に長時間さらされた場合、（ iii ）患者が使用した寝具等に触れた場合等により感染する。人々が長期間、頻繁に密接に接触する集会は、エムポックスの感染リスクを助長する可能性があり、集会参加者や主催者へ向けた感染拡大防止の注意喚起や啓発活動を積極的に実施することが重要である。世界保健機関（WHO)によると、世界では、2022年1月以降、19万人以上の感染例が報告されている（2026年8月31日時点）。国内では、2022年7月に1例目の患者が報告された。2023年以降も、患者の発生が続いており、421例の症例が報告されている（2026年10月30日時点）。

エムポックス（厚生労働省）

エムポックス（詳細版）（国立健康危機管理研究機構）

**年別累積報告数**




### 表２．大阪府全数報告数（2026年 第44週10月26日～11月1日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患　をご覧ください。)

| | 疾患名<br>（ ）内の病型は今週報告分のみ<br>府内累積報告数の内訳は省略 | 報告数 | 豊能 | 三島 | 北河内 | 中河内 | 南河内 | 堺市 | 泉州 | 大阪市 | 府内累積報告数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ３類感染症 | **細菌性赤痢** | **1** | | | | | 1 | | | | 4 |
| | **腸管出血性大腸菌感染症** | **3** | 1 | | | 1 | | | | 1 | 258 |
| ４類感染症 | **エムポックス** | **1** | | | | | | | | 1 | 10 |
| | **レジオネラ症** | **2** | 1 | | | | 1 | | | | 148 |
| ５類感染症 | **アメーバ赤痢** | **2** | | | | | | | 1 | 1 | 44 |
| | **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症** | **1** | 1 | | | | | | | | 81 |
| | **急性脳炎** | **1** | | | | | | | 1 | | 17 |
| | **劇症型溶血性レンサ球菌感染症** | **1** | | 1 | | | | | | | 68 |
| | **侵襲性インフルエンザ菌感染症** | **1** | | | 1 | | | | | | 39 |
| | **多剤耐性緑膿菌感染症** | **1** | | | 1 | | | | | | 33 |
| | **梅毒** | **10** | 1 | | 1 | 2 | | | | 6 | 1,086 |
| | **百日咳** | **2** | 1 | | | | 1 | | | | 240 |
| 結核<br>(2026年9月分) | **結核　新登録患者数：82名**　（内　肺・喀痰塗抹陽性　24名）<br>（府内累積報告数　814名、内　肺・喀痰塗抹陽性　245名） | | | | | | | | | | |

**（2026年11月2日　集計分）**